

## 「羽月西小学校の八代棒踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

伊佐市立羽月西小学校

### 2 学年・人数

小学3年生から6年生 12人

### 3 日時・場所

- (1) 発表の日時・場所：羽月西小学校校庭（11月） 伊佐市文化会館（12月）
- (2) 練習の日時・場所：羽月西小学校及び八代公民館（10月～12月）

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

- (1) 名称  
八代棒踊り（やしとぼうおどり）

- (2) 由来  
戦前から青年団等を中心に伝承されてきた。一時途絶えたものの、平成元年頃、八代青壮年部の復活させたいとの願いから、有志の努力で復活させ、現在も青壮年部を中心に伝承されている。

平成22年度から本校PTAと連携し、校区文化祭でアトラクションとして児童による棒踊りを披露した。これがきっかけとなり伝承活動に取り組むようになった。

- (3) 構成等  
あげ唄を2人で唄い、三尺棒を持った6人が1組となり、参加人数によって2組・3組・4組となって踊る。棒を打ち合うことで、五穀豊穰の感謝の気持ちを捧げ、棒を打ち合う音で厄を払い、無病息災を祈っていると伝えられる。  
あげ唄が7種類あり、同じ動きを繰り返す。着物姿で、頭は豆絞りで色分けし、白色、赤色、黄色を縦一列に分け、背に飾り（チロロ）を着けることになっている。

### 5 保存会や地域との連携の具体

学校の教育活動として伝承活動を位置づけし、練習時間を授業の中で割いている。

また、10年位前から羽月西校区コミュニティ協議会の協力をもらって、各自治会が交代で指導をしていた。しかし、指導できる自治会員が少なくなり、次第に八代棒踊り保存会が中心となって棒踊りの保存に努めてきた。

今では学校・PTA・八代棒踊り保存会が一丸となり、棒踊りの伝承活動を継続している。

### 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校・PTA・八代棒踊り保存会と連携協力しながら、棒踊りを継続して伝承していく体制を整えた。

また、ふるさとの郷土芸能を守り育てていくという自覚を促すねらいから、八代棒踊り保存会が中心となって伝承していく体制をこれからも維持していくことを確認した。

さらに、校区の小・中学生全員が参加できるように工夫するとともに、中学生が小学生に指導できる体制を整える必要もある。

## 7 取組の様子



練習の様子



発表の様子 (平成 29 年度校区文化祭)



発表の様子 (平成 29 年度伊佐市郷土芸能の祭典)



記念写真 (平成 29 年度伊佐市郷土芸能の祭典)

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

子どもたちは、小学3年生から棒踊りが踊れることが待ち遠しく思っていたらしく、練習にまじめに取り組んでいる。

夜間の練習もあるため保護者の送迎が必要となるが、棒踊りに対する保護者の理解もあり、大変協力的である。ふるさとの郷土芸能である棒踊りをとおして、生まれ育っている地域への誇りや愛着を子どもたちに育みたいという保護者の願いがあるようである。

夜間の練習にもかかわらず、担当教諭は毎回参加し、自主的に指導の協力を行っている。踊り子が欠けるときは、踊りを覚えた教諭が子どもたちと一緒に踊っている。勇壮な棒踊りに参加することで、地域の歴史や伝統を肌で感じ、より羽月西校区の理解が深まったと話している。

踊りの発表機会を増やすため、市内の祭典・事業等に参加している。